

～長期学校改築計画に関する懇話会資料より抜粋～

信州 小諸 KOMORO 2-3. 小中学校の配置及び校区について

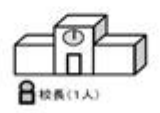
小中一貫教育とは

小中連携教育 小・中学校段階の教員が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育

小中一貫教育 小中連携教育のうち、小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、体系的な教育を目指す教育

①義務教育学校

・新たな学校種(一つの学校)
⇒一人の校長、一つの教職員組織
修業年限:9年
(前期課程6年+後期課程3年)

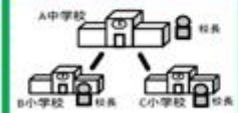


校長(1人)

小中一貫型小学校・中学校

・組織上独立した小学校及び中学校が一貫した教育を施す形態
⇒それぞれの学校に校長、教職員組織

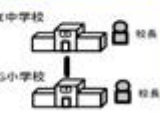
②併設型小学校・中学校 (同一の設置者)



A中学校 校長
B小学校 校長 C小学校 校長

※一貫教育にふさわしい運営体制の整備が要
※併設型小・中学校を参考に適切な運営体制を整備すること

③連携型小学校・中学校 (異なる設置者)



D組合立中学校 校長
F組合立小学校 校長

※併設型小・中学校を参考に適切な運営体制を整備すること

29

信州 小諸 KOMORO 2-3. 小中学校の配置及び校区について

検討会での研究対象学校 (先行事例)

信濃小中学校

○平成16年4月 少子化、学校施設の老朽化に対応し、同時に教育の質の向上を図るため「信濃町立小学校適正配置検討委員会」を設置

▼

平成24年4月 開校

佐久穂小・中学校

○平成19年2月 子どもの数の減少を背景に「保育所・小中学校在り方検討委員会」を設置

▼

平成27年4月 開校

両校とも委員会設置から9年目に開校



2-3. 小中学校の配置及び校区について

検討会での研究対象学校（先行事例）

信濃小中学校

児童356名 生徒209名

初等部 1年～4年

高等部 5年～9年

ふるさと学習、読書活動、
特別支援教育を柱とする。
(個々の教育的ニーズに対応)

佐久穂小・中学校

児童514名 生徒261名

基礎充実期 1年～4年

活用期 5年～7年

発展期 8年～9年

独自英語カリキュラム、ふるさと学習からキャリア教育まで系統的に学ぶ。

31



2-3. 小中学校の配置及び校区について

2つの先行事例における成果と課題

【成果】

- 不登校生徒の減少等、中1ギャップ*の緩和が期待できる。
- 地域とつながる学習が充実できる。
- 学年を越えた子どものつながりが生まれる。
- 統合することで町費職員の集中配置ができ、集団不適應や学習に
つまずく子どもの支援等に経費を振り向けることが可能となる。

【課題】

- 学力向上の成果は明確には現れていない。
- 人間関係がこじれると継続する場合がある。
- 系統的な指導、調整のための会議が増える。
- 規模が大きくなると一体的な学校運営が難しい。

*中1ギャップ・・・中学校に
入学した子どもが、小学校と
異なる環境になじめず不登校
やいじめが増加すること。

これらの研究結果を踏まえて、次のように提言する。 32